

国産木質バイオマスから2つの価値を創出 — 高たんぱく飼料とリグニン活用 —

本取り組みは、国内の木質バイオマス等を活用し、シロアリの生物変換により、虫体由来の高たんぱく資源とリグニン由来の利用資源を生み出すものです。飼料+素材の2つの出口を持つことで、収益性とESG対応の両立を目指します。

(事業目標)

国内資源を起点に、安定供給と価格変動リスクの抑制を実現します。あわせて、**タンパク質（飼料用途）とリグニン（素材用途）**を活用し、単一用途に依存しない収益モデルを構築します。

(バイオマス資源の活用)

オオシロアリは木質系資源の変換に適した生物です。山林由来の木材や未利用バイオマスを活用し、以下の2つの価値を創出します。

- ・虫体の増殖 → 高たんぱく資源（飼料原料）
- ・リグニン分画/残渣 → 素材・工業用途

(事業価値)

① タンパク質（虫体）

高たんぱく資源として飼料用途に展開し、国産たんぱく源の選択肢を広げます。

② リグニン

素材・工業分野への展開により、収益源の分散と原料利用効率の向上につながります。

(生産システム)

中核技術は、シロアリの増殖・成長を管理する閉鎖型生産システムです。品質の平準化、衛生管理、安定生産を実現し、事業化に必要な再現性を確保します。

(農業・素材産業への貢献)

飼料分野：安定調達、輸入依存低減、原価変動リスクの抑制

素材分野：リグニン活用による高付加価値化

経営面：複線型収益モデル

ESG面：国産資源活用、未利用資源の循環利用

(協業パートナー募集)

タンパク質用途・リグニン用途の両面で協業企業を募集しています。

- ・木質バイオマス/未利用資源の供給企業
- ・飼料・畜産・養殖分野の販路を持つ企業
- ・リグニンの素材用途を開発する企業設備
- ・品質管理・用途評価に強みを持つ企業

1つの資源から、2つの価値へ。収益性とESG訴求を両立する事業モデルを共に構築します。

畜産を支える飼料タンパク質（現状）



魚粉

大豆粕

生産施設予想図



畜産を支える飼料タンパク質



(会社概要)

バイオマス資源開発合同会社

HP: <https://www.biomassrd.com>